

思いをもって生き生きとくり返しかかわることを大事に

1 年

『あさがおとなかよし』の実践

札幌市立緑丘小学校 蛸子かおり

◆単元のポイント

○一人一鉢で、ぼくの・わたしのあさがおさん

～たっぷりかかわろう～

植物との積極的なかわりあいがあまり見られない子供たちの実態を踏まえ、＜みんなのあさがお＞ではなく＜自分だけのあさがお＞にして、たっぷり対象にかかわれるようにしました。あさがおに対する思い入れも深まり、意欲的に取り組んでいけると考えました。

○いつも一緒、すぐお世話できるよ、あさがおさん

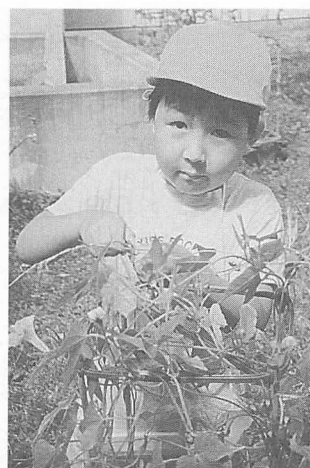
～いつもかかわろう～

限られた時間の中で毎日かかわることを考えると、子供たちにとってよりお世話をしやすい環境を構成する必要があります。子供たちが行きやすい中庭にあさがおを置き、いつでも気軽に行けるようにしました。

○変身大好きあさがおマン、見ていてあきないよ

～ずっとかかわろう～

あさがおは実によくその姿を変えていきます。例えば、同じ葉でも双葉と本葉を比べると、形だけではなく触った感触も異なります。長い期間かわり続けるためには、魅力ある素材というのも不可欠です。



◆単元の目標

○身近な植物に関心をもち、意欲的にお世話しようとする。

(関心・意欲・態度)

○植物の成長の様子や植物に対する自分の思いを素直に表現することができる。

(思考・表現)

○栽培活動を通して、植物も自分たちと同じように生命をもっていることや成長していることに気付く。

(気付き)

◆単元の構想（14時間扱い）

あさがおとなかよし～目指せあさがお博士

日常活動
開始

『1年生と仲良くする会』
あさがおの種をもらったよ

あさがおの種を
植えよう！ <種>

早く出てきて
あさがおさん <芽>

大きくなってね
あさがおさん <葉>

きれいに咲いたよ
あさがおさん <花>

やったあ！
種ができたよ <種>

採れた種を今度の
1年生にもあげるよ

<留意点>

- ・ 2年生にあさがおの種をわたしてもらい、意欲付けを図る。
- ・ 種を詳しく見たり、触ったりする時間を保障する。
- ・ 自分の兄弟や種をもらった2年生などから、植え方の情報を得るよう促す。
- ・ あさがおに大きな変化が出た時には、必ずカードに書き、成長の記録を作っていく。
- ・ 発芽しない子へは、適切なアドバイスをする。
- ・ 五感をたくさん使って働きかけるよう促す。
- ・ 日常活動をきちんと継続していきけるよう声かけをしっかり行う。
- ・ いずれは枯れてなくなってしまうあさがおの花が、形に残せること（おしばな、絵……）にも目を向けさせる。
- ・ 種から始まってまた種にもどったことを感じさせるようにする。
- ・ 来年の1年生にも種を分けてあげることができることを知らせる。

◆実践するにあたって

長期間の取り組みになるので、子供たちの意欲が続いていくよう、活動や表現を工夫する必要があります。また、あさがおを利用しておもちゃを作るなど、他の単元とのかかわりなども視野に入れた方が良いでしょう。